

キャラクター名
兎傘 鏑(とがさ かざり)

プレイヤー名

シンドローム	ソラリス		ワークス	探偵	カヴァー	探偵
	オルクス			年齢	26	性別
オプション	覚醒	探求	衝動	妄想	初期侵食率	28 %
出自	有名人	経験	平凡	邂逅	恩人	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	25
肉体	0	0	1			1	行動値	7
感覚	1	0	1			2	(非装備時)	7
精神	2	1	0			3	戦闘移動	12
社会	5	0	0			5	全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC			交渉	5	
回避			知覚	1		意志	1		調達		
運転:	2		芸術:			知識:			情報: 噂話	3	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
「お手並み拝見」0%~	交渉	7r+5		5		侵蝕:5/C値:8/装甲値無視/《コンセ:ソラリス LV2》+《絶対の恐怖 LV5》
「幻恐の一滴」0%~	交渉	7r+5		20		侵蝕:11/C値:8/装甲値無視/《コンセ:ソラリス LV2》+《絶対の恐怖 LV5》+《神の御言葉 LV5》
「お手並み拝見」100%~	交渉	11r+5		6		侵蝕:5/C値:7/装甲値無視/《コンセ:ソラリス LV3》+《絶対の恐怖 LV6》
「幻恐の一滴」100%~	交渉	11r+5		26		侵蝕:11/C値:7/装甲値無視/《コンセ:ソラリス LV3》+《絶対の恐怖 LV6》+《神の御言葉 LV6》

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ:噂好きの友人	
思い出の一品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
生還者(リターナー)	P	N		
学生時の友人や知り合い	P	友情	N	疎外感
恩人(研究者)	P	誠意	N	猜疑心
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 10 残り財産P: 7

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト:ソラリス	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果:	C値を-LV(下限7)							
絶対の恐怖	5	3	メジャー	視界	-	対決	-	
効果:	攻撃力+LVの射撃攻撃。装甲値無視							
神の御言葉	3	4	メジャー	-	-	対決	リミット	
効果:	絶対の恐怖と組み合わせて攻撃力をLV×5。1シナ3回。							
錯覚の香り	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果:	判定ダイスを+LV個							
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

【キャラクター簡易説明】
 都内で探偵をやっている女性。好奇心のままに生きている。面白そう、興味深いことなら依頼じゃなくてもタダ働きでも喜んで調べる。
 面影島の事件に関わった。

【詳細説明】自分用に書いているので読んでも読まなくても大丈夫です
 好きなもの: 謎、未知、不可思議なもの
 嫌いなもの: 退屈、運動
 美しいと感じるもの: 日常

台詞例
 「兎傘鏑だ。これでも探偵をやっている。今後ともお見知り置きを」
 「それはそれは……とても興味深いね。ぜひ詳しく聞こう」
 「好奇心は猫をも殺す?だがその好奇心こそが猫を猫たらしめるものだ。そうだろうか?」

好奇心のままに生きてるメガネお姉さん。メガネは伊達メガネ。中性的な喋り方をしている。探偵になったのも面白いものに首突っ込みたいからで本人は天職だと喜んでる。
 両親ともに医者で家族仲は昔から良くなかったが、学校での生活はトラブルもなくクラスメイトとも良好な関係を築いていた。比較的平凡だった。
 でもその平凡はどこか退屈に感じて、色彩は無かった。
 両親からは医大に進めとしつつよく言われて自分は他の道を探したいと意見が割れてかなり揉めていた。高校卒業以降は家を出てそれきり実家には帰っていないし連絡もとっていない。鏑は両親に自分の気持ちを伝えて歩み寄るのを諦めて、両親は娘を適切な道に進ませることを諦めた。
 私を思っただけの助言だったのだろうか、その道では私は生きられない。時には諦めも肝心だろうか?お互いに、ね。